

給食費無償化、現状を確認

久御山町議会 民生教育常任委員会

久御山町の民生教育常任委員会（梶悦子委員長）が24日に開かう園児、小・中学校では、委員が久御山学校を訪問し、学校給食の現状について確認した。



久御山中学校の給食を試食する委員ら

同町では今年度から、町立こども園に通う園児、小・中学校の児童・生徒の給食費を無償化。保護者負担の軽減を図っている。また、町の一般会計予算で管理（公会計

化）することにより、給食事務に関わる教職員の負担軽減にもつながっている。
給食の食材については学校給食会や地元業者から購入。米はすべて町内産で、野菜も可能な限り旬の地元産を使用し、地産地消に取り組んでいる。
毎日の献立は、栄養教諭、栄養士、調理員が献立検討部会で決定している。給食に対する評価は、毎年、中学2年生と小学5年生を対象に実施しているアンケートにおいて、好評を得ているという。
同中学校では、2018年4月から調理業務を民間委託し、自校式の温かい給食を提供している。今年度の生徒数は316人で、教

職員分を含めて1日あたり約350食を調理している。
この日のメニューはご飯、ホイコーロー、わかめスープ、牛乳。委員は2年1組の生徒の配膳の様子や食べる様子を見学し、試食も行った。
1食360円の給食の量と量に概ね満足した様子の委員はその後の質疑応答で、食後の質疑点として、食量に十分か、残飯の有無、1食あたりの費用の他市町との比較、カロリーなどについて、同校の栄養士に質問した。無償化により、子供たちの食に対する感謝の気持ちが希薄化することを懸念する声もあり、それに対する学校のフォローも求めた。